

景石を楽しむ見本園の寄贈について

山本晃弘・永木利夫・世羅徹哉

はじめに

景石とは、庭や空間のバランスを保つことを目的として配置される岩石である（東京農工大学農学部造園学科造園用語辞典編集委員会 1985；造園修景大辞典編集委員会 1980b）。

令和4（2022）年2月、一般社団法人広島市造園建設業協会（以下市造協）設立30周年記念事業の一環として、広島市植物公園（以下当園）が「景石を楽しむ見本園」の寄贈を受けたので記録する。

寄贈・整備までの経緯

2021年7月27日、市造協専務理事の栄谷洋氏から、当園園長の世羅（当時）、栽培・展示課長の永木（当時）に対して、市造協設立30周年記念事業として何らかの寄贈を行いたいとの打診があった。これを受けて、園内でいくつかの候補地を検討した結果、当園入口東側植栽の修景整備を提案することとなった。

整備前の当該場所は、中央に景石が配置され、ほぼ全面にオカメザサ *Shibatana kumasaca* (Zoll. ex Steud.) Nakai、前面にジュニペルス・メディア *Juniperus × media*、スロープにそってハマヒサカキ *Eurya emarginata* (Thunb.) Makino が植栽されている場所であった。オカメザサとその他の植物の剪定時期が合わないこともあり、景観維持が難しく、その改善が課題となっていた。

整備内容について市造協と協議を行った結果、広島県および周辺地域において景石として利用されている岩石を修景的に配置するとともに、植物と岩石・地質の関係について紹介する「景石を楽しむ見本園」として、整備を進めることとなった。

整備に並行して、元広島県立安古市高等学校教諭（地学）の中原伸幸氏による助言のもと、景石の同定や解説の作成を行った。

全体の構成と解説

全体の構成としては、向原の庭石5点、湯来の青石1点、羅漢石1点、石灰岩3点である（図1）。

解説としては、各景石の広島県内における位置付けや特徴について記すとともに、岩石・地質が植生や植物の分布に及ぼす影響（藤川 2006；西元 2007）について、地質学及び植物学的観点からの説明を行った。



図1 景石を楽しむ見本園
a: 向原の庭石, b: 湯来の青石, c: 羅漢石, d: 石灰岩

向原の庭石

向原の庭石は、旧向原町（現広島県安芸高田市）周辺に多産する岩石で（向原町誌編さん委員会 1989）、広島県の造園関係者からは「向原石」とも呼ばれている（2023年2月時点）。

地質学的には、デイサイト・流紋岩類などから構成される後期白亜紀の非アルカリ珪長質火山岩類で（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022）、高田流紋岩と呼ばれる（向原町誌編さん委員会 1992）。広島県内では、旧向原町周辺のみでなく広島県内に広く見られ、花崗岩類と合わせると広島県の面積の約70%を占めている（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022）。

これら流紋岩類や花崗岩類からなる地質帯では、かつてアカマツ林や二次林植生が優占したことから、広島有数のマツタケ産地を育んだほか、薪炭林としても利用された（広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編 1997）。

湯来の青石

青石とは、青色石材の総称で、特に青緑色を帯びた庭石のことをさす（八田、1984；造園修景大辞典編集委員会編 1980a）。湯来の青石は、広島県広島市佐伯区湯来町に多く産出する青みがかかった石である（広島県佐伯郡湯来町湯来町誌編纂委員会 1997；中国新聞社 1982a）。地質学

的には、珪酸分が少ないマグマが地中でゆっくりと固まった苦鉄質深成岩類の斑れい岩が変性を受けた変斑れい岩等の岩石に相当するものと見られる（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022）。この地質帯は、植林地としても盛んに利用されている。

羅漢石

羅漢石は、広島・山口県境にある羅漢山に産出する岩石で、地質学的には蛇紋岩に相当する（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022；中国新聞社 1982a）。蛇紋岩は、濃い緑色で光沢があり、岩肌が蛇の皮に見えることがその名の由来である（造園修景大辞典編集委員会 1980b）。蛇紋岩が風化した土壌は、崩壊しやすいえ、多量に含まれるマグネシウム等が植物の生育を妨げる特殊な環境であり（北村 1993）、広島県内では、ネコヤマヒゴタイ *Saussurea modesta* Kitam. など、蛇紋岩地に特徴的な植物種が見られる（広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編 1997；山本ほか 2022）。

なお、当園で展示している羅漢石には、地震でずれた痕跡が見られることから、断層破碎帯の一部であったことがうかがえる。

石灰岩

石灰岩は、サンゴなどの生物の殻が起源であるため、全体的に白っぽい色が特徴である（中国新聞社 1982a）。広島県内では、帝釈峡のほか、島嶼や沿岸部でも見られる岩石で（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2022）、カルシウムを多く含むことから、セメントの原料としても利用される（中国新聞社 1982a）。

石灰岩が風化した土壌は、保水力が低く、カルシウムが過剰に供給される特殊な環境である。そのような理由から、広島県北東部の石灰岩地には、ナガバヤクシソウ *Crepidiastrum yoshinoi* (Makino) Pak et Kawano など、石灰岩地に特徴的な植物種が見られる（広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編 1997）。

石灰岩内には化石が含まれている場合が多いが、当園に設置された石灰岩からは確認できなかった。なお、当園に設置された石灰岩は、山

口県由来のものである。

謝辞

本稿を進めるにあたり、元広島県立安古市高等学校教諭の中原伸幸氏には、岩石同定および地質学に係る情報提供の面でご協力いただきました。深く感謝し、御礼を申し上げます。

参考文献

- 中国新聞社(1982a):『広島県大百科事典<上巻>』中国新聞社.
- 中国新聞社(1982b):『広島県大百科事典<下巻>』中国新聞社.
- 藤川和美(2006):高知県の蛇紋岩地の植物と高知県立牧野植物園. 地質学雑誌 112:161-168.
- 八田準一(1984):『最新造園大百科事典』農業図書.
- 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編). 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
- 北村四郎(1993):日本の蛇紋岩植物相の研究. 『北村四郎選集 V 植物の分布と分化』保育社.
- 向原町誌編さん委員会(1989)『向原町誌下巻』向原町.
- 向原町誌編さん委員会(1992)『向原町誌上巻』向原町.
- 西元俊典(2006)『瀬戸内海事典』南々社.
- 広島県佐伯郡湯来町湯来町誌編纂委員会編(1997)『湯来町誌 通志編』広島県佐伯郡湯来町.
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター(2022):20万分の1日本シームレス地質図 V2. <https://gbank.gsj.jp/seamless> (閲覧日:2022年11月15日)
- 東京農業大学農学部造園学科造園用語辞典編集委員会(1985):『造園用語辞典』
- 山本晃弘・井上竜輔・和崎淳・中坪孝之(2022):広島県庄原市猫山における蛇紋岩植物の現状. 広島大学総合博物館研究報告 14:105-118.
- 造園修景大辞典編集委員会(1980a)『造園修景大辞典第1巻』株式会社同胞社出版.
- 造園修景大辞典編集委員会(1980b)『造園修景大辞典第3巻』株式会社同胞社出版.